

「21世紀型コミュニケーション力の育成」研修モジュール

C3 ブレインストーミング KJ法

一般財団法人 コンピュータ教育推進センター

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

これより「ブレインストーミングとKJ法」のワークショップを始めます。
この時間を担当する〇〇〇〇です。
よろしくお願いします。

「ブレインストーミングとKJ法」は、多くの教科で扱うことのできる思考法です。
これから、実際に体験をしながらその方法を学んでいきましょう。

※ブレインストーミングとKJ法を分けて実施することも可能。

ブレインストーミングとは

- 参加者全員で多数の意見やアイデアを出し合い、そこから新しい発想を生み出すための方法の一つ。
- アレックス・F・オズボーン氏(アメリカ)が考案

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

まず、ブレインストーミングとはどんなものでしょうか？

参加者全員で多数の意見やアイデアを出し合い、そこから新しい発想を生み出すための方法の一つです。

アメリカ人のアレックス・F・オズボーン氏が考案しました。

ブレインストーミングとは

- 全員が参加
- 一人一人の意見を尊重
- アイディアを次につなげる



アクティビティの基本

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

ブレインストーミングは、
・全員が参加すること
・一人一人の意見を尊重すること
・アイディアを次につなげること
を基本としており、
様々なアクティビティの基本とも言われています。

ブレインストーミングの4原則

- ① アイデアの量にこだわる。
「質より量」
- ② 批判をしない。
「エーッ！」「違うよ」「冷笑」などはNG!
- ③ 独創的なアイデアを歓迎する。
「自由奔放」「突拍子もない」はGood!
- ④ アイデアを融合させて改良する。
必要に応じて進行役が助言

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次に、ブレインストーミングの4原則について説明します。

一つ目は、アイデアの量にこだわることです。

つまり「質より量」ということになります。

二つ目は、批判をしないことです。

「エーッ！」「違うよ」「冷笑」などはNGとします。

三つ目は、独創的なアイデアを歓迎することです。

みんなと同じ意見ばかりでは新しいものは生み出せないの、「自由奔放」「突拍子もない」意見は重要です。

四つ目は、アイデアを融合させて改良することです。

それぞれのアイデアを合わせることでよりよいものになることがあります。

ただし、そのためには、進行役(ファシリテーター)の役割が重要になってきます。

ブレインストーミングの 進め方を理解しよう

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次に、ブレインストーミングの進め方を理解しましょう。

ブレインストーミングの進め方

①具体的なテーマを与える

- × 地球環境を守るにはどうしたらよいか
- 私たちにできるエコ活動を考えよう

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

まず、具体的なテーマを与えることから始まります。
その際には、「地球環境を守るにはどうしたらよいか」といったような漠然としたものより、「私たちにできるエコ活動を考えよう」といったような、具体的なものの方が深まります。

ブレインストーミングの進め方

②グループを作る

- ・テーマによって、メンバーを考慮。
Ex.同学年or異学年

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次にグループを作ります。

たとえば、同学年がいいのか異学年がいいのかなど、テーマによって、メンバーを考慮するとよいでしょう。

ブレインストーミングの進め方

③ グループファシリテータを決める

<心構え>

- 自由に話せる雰囲気作り
- テンポ良く進める
- まとめようとしなない(切り捨てない)

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループができれば、話し合いの進行役となるグループファシリテータを決めます。ファシリテーターは、

- ・自由に話せる雰囲気作り
- ・テンポ良く進める
- ・無理矢理まとめようとしなない、意見を切り捨てないことを心がけます。

ブレインストーミングの進め方

④ 自分の意見を付箋紙 に書く

- キーワードで書く(短く)
- 1枚に一つ

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループの役割が決まったら、自分の意見を付箋紙に書いていきます。

・キーワードで書く(短く)

・1枚に一つ

書くようにします。

ブレインストーミングの進め方

⑤ 順番に発表する

- 1回の発表でアイデア1つ
- 演説禁止(簡潔に)
- 発表した付箋紙を模造紙に貼る
(無造作に並べてよい)

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

付箋紙にアイデアを書いたら、順番に発表していきます。
に書いていきます。

- ・1回の発表でアイデアは1つだけ発表します
似たような考えの人は続けて発表してもいいでしょう。
- ・演説は禁止です。簡潔に話すようにします。
- ・発表した付箋紙は模造紙に貼っていきます。
ブレインストーミングでは、無造作に並べてよいです。

※KJ法をつなげる場合は、似たアイデアを近づけて貼ってもよいことを伝える。

それでは、
ブレインストーミングを
してみましょう。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

それでは、実際にブレインストーミングを体験してみましょう。

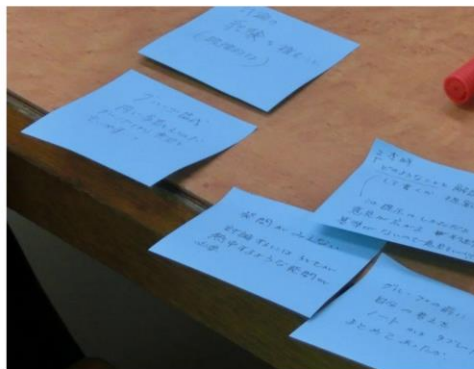
テーマは、
「子どもたちに学校を
好きにさせる方法」
です。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

それでは、実際にブレインストーミングを体験してみましょう。
今日のテーマは、
「子どもたちに学校を好きにさせる方法」
です。

※参加者の実態や研修会の課題等に応じてテーマを決めてください。

自分の意見を付箋紙に 書きましょう。



時間は7分です。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

自分の意見を書く時間は、7分です。
では、始めてください。

発表しましょう

- 1回の発表でアイデア1つ
- 演説禁止(簡潔に)
- 発表した付箋紙を模造紙に貼る
(無造作に並べてよい)

それでは発表してみましょう。
留意点は先に説明した通りです。
時間は15分です。

ブレインストーミングに 期待される効果

- ①自分の考えがまとまる
キーワードにする
- ②他の参加者の考えがわかる
共通点と相違点を知る
- ③自分の考えの不足に気づく
情報不足や先入観
- ④新しいアイディア(解決策)が生まれる

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

はい、時間になりました。

みなさん、いかがでしたか？

参加者全員で多数のアイディアを出し合い、そこから新しい発想がもてたでしょうか？
ここで、ブレインストーミングに期待される効果についてまとめます。

- ・まず、付箋紙にキーワードを書く作業のなかで、自分の考えがまとまって感じが感じられたでしょうか？
- ・次に、他の人のアイディアを聞くことで、共通点と相違点を知ることができたでしょうか？
- ・また、自分のアイディアを発表する活動のなかで、情報不足や先入観等、自分の考えの不足に気づくことがあったでしょうか？
- ・最後に、グループでの話し合いを通して、新しいアイディアあるいは解決策が生まれましたでしょうか？

※ブレインストーミングのみの場合は、ここで終了です。

最後のスライドに進んでください。

KJ法とは

- ブレインストーミング等でカード化された多数の意見やアイデアをグループ化し、整理して、問題解決の筋道を明らかにしていくための手法。
- 川喜田二郎氏(日本)が考案

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

しかし、意見を出し合っただけでは、なかなか意見をまとめられないことがあります。

そこで、続いてKJ法の体験をしていただきたいと思います。

KJ法とは、今行った、ブレインストーミング等でカード化された多数の意見やアイデアをグループ化し、整序して、問題解決の筋道を明らかにしていくための手法です。

これは、日本人の川喜田二郎氏が考案したものです。

KJ法の 手順を理解しよう

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

KJ法の手順を理解しましょう

KJ法の手順

① キーワード収集

- カードは同じサイズ
- カード1枚にキーワード1つ
- 具体的、かつ簡潔に表現

※本WSでは、ブレインストーミングで実施

まず、キーワードを収集しますが、既にブレインストーミングで実施しました。

KJ法の手順

② グループニング

○ カードを無造作(バラバラ)に並べる。

※ここから

○ 関連性のあるカードを小グループ化

○ 中グループ、大グループ化(5~6個)

○ 見出しを付ける

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次に、グループニングを行います。

最初は、カードを無造作(バラバラ)に並べます。

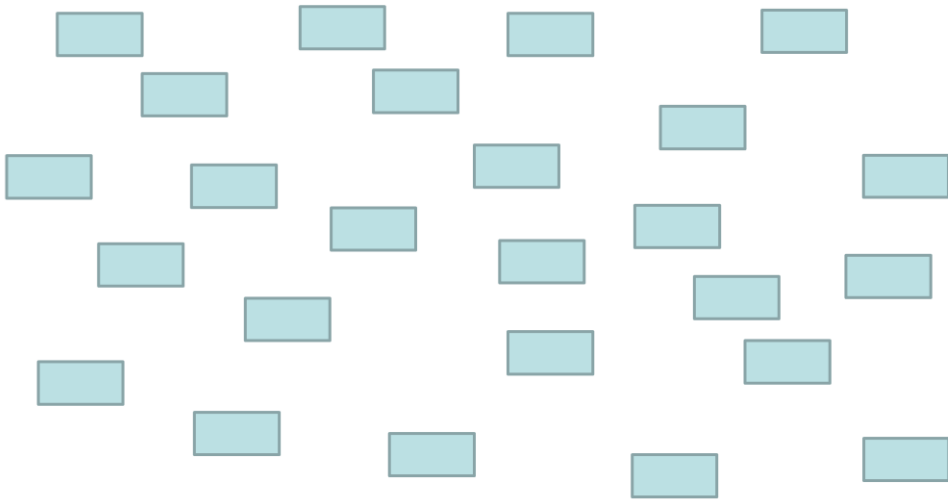
既にここまですんでいると思います。

続いて、関連性のあるカードを小グループ化していきます。

更に中グループ化、5~6個くらいの大グループ化していきます。

そして、グループに見出しを付けていきます。

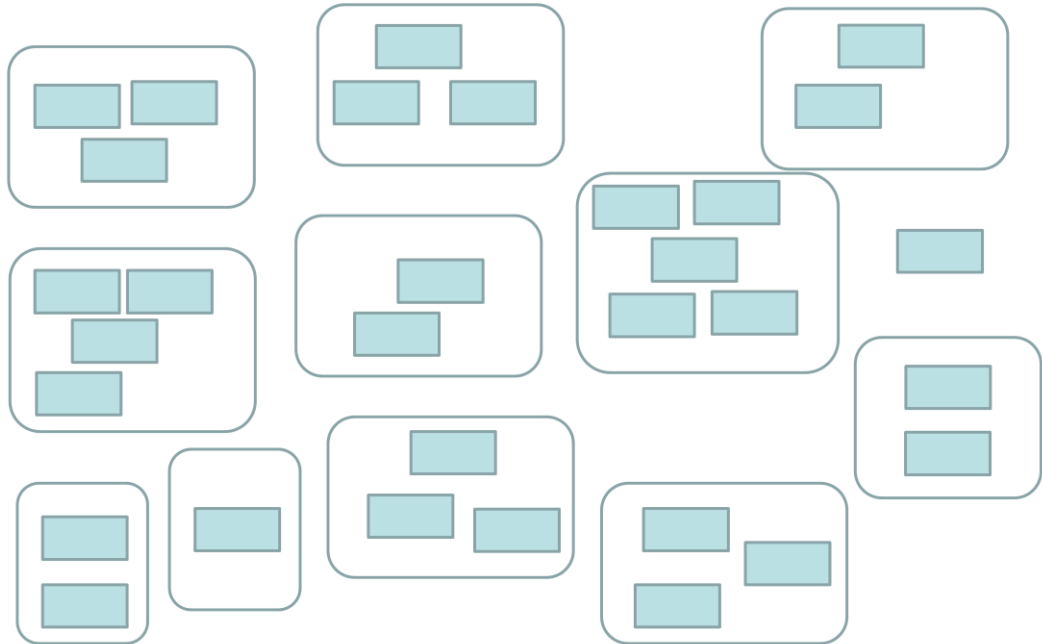
バラバラに広げる



Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

図で見てください。
バラバラになっているカードを

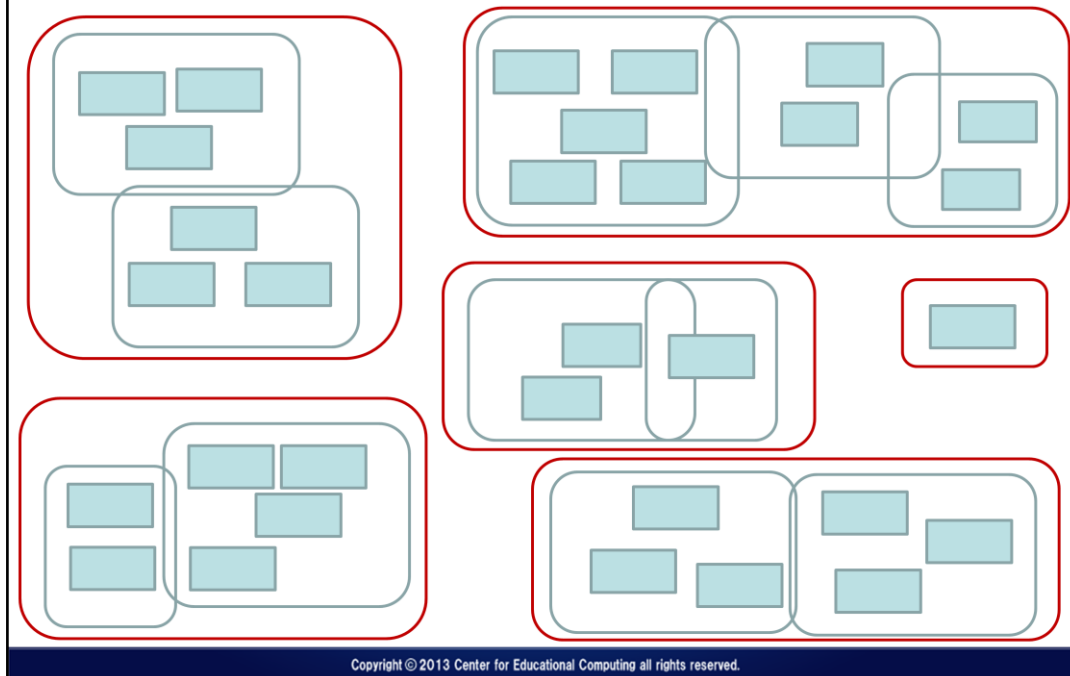
関連性のあるカードをグループ化



Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

関連性を考慮してグループ化し

小グループから中(大)グループへ



Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

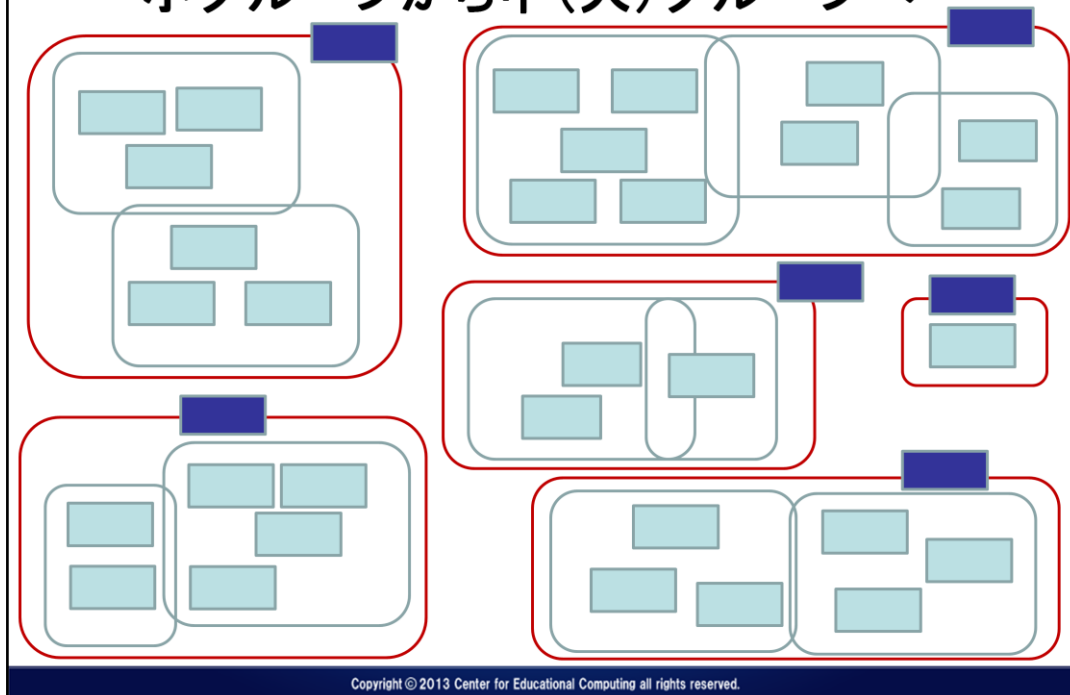
小グループを中、大グループにしていきます。

この段階までずっと1つだけになっているカードがあったら、無理して他のグループに入れなくてよいです。

KJ法を考案した川喜田二郎はどこのグループにも属さないカードはそれ相応の根拠があると述べています。

ですから、最後まで1つだけになっているカードはそれ1枚で1つのグループにすればよいのです。

小グループから中(大)グループへ



Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

最後のグループ、つまり、大グループまでできたら、各グループにラベル(表札)を付けます。

メンバーで相談しながら、1つ1つのグループの意味を忠実に表します。
キーワードだけでは抽象的になるので、できるだけ文になるようにしましょう。

KJ法の手順

③ 図解化

グループ間の関係(相互・対立・原因と結果など)が分かるようにする。

○ 線でつなぐ(相互 \leftrightarrow 、因果 \rightarrow 、同列 \equiv)

○ 丸で囲む

※別紙に写し取ってもよい

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループ化ができたなら、グループ間の関係(相互・対立・原因と結果など)が分かるように図解化します。

線でつないだり、丸で囲んだりしていきます。

線でつなぐときには、相互の関係や因果などの関係をもとに矢印を付けるようにするとよいでしょう。

また、分かりにくくなってしまったら、別紙に写し取ってもいいでしょう。

KJ法の手順

④ 文章化

- 図解化したものを文章で表現する。
- 討論を行う。(テーマの本質を見極める)

※本WSでは、簡略化して口頭で発表する。

- ・ 図解化したものを使って発表
- ・ タイトルや見出しもつける

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

図解化したものを文章で表現します。

つまり、文で表したラベル(表札)とグループ間の関係を表した矢印などをもとに、文章化していきます。

また、それを読み合って、テーマの本質を見極めるための討論を行います。

しかし、今回のワークショップでは、文章化までは行わず、図解化したものを使って発表してもらいます。

ですから、模造紙にタイトルや見出しもつけると分かりやすくなると思います。

実際の授業でも、模造紙にまとめたものを使って発表することが多いと思います。

それでは、
KJ法を
行いましょう。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

それでは、KJ法を行ってみましょう。

作業時間は30分です。

発表時間は2分です。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループでの作業時間は30分です。
その後、2分で発表してもらいます。

※参加人数や参加者の実態に応じて時間を調整してください。
※グループを回って支援してください。

グループ発表

時間になりましたので、活動を止めてください
グループごとに話し合った内容について順番に発表してもらいます。
1グループ2分間です。
では、〇グループからお願いします。

※活動中に見つけたこと、感じたことを織り込んで話を進めるとよいでしょう。

※時間に余裕があったら、発表を聞いた人に感想を聞くとよいと思います。

※時間が足りない場合は、グループ間で発表するというやり方もあります。

KJ法に期待される効果

- ・ グループ化していくことで、重要なポイントを明らかにすることができる。
- ・ 解決すべき問題や行うべき取り組みが明確になる。
- ・ グループで取り組むことによって、チーム作りの効果を期待できる。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

最後に、KJ法に期待される効果についてまとめます。

- ・グループ化していくことで、重要なポイントを明らかにすることができる。
 - ・解決すべき問題や行うべき取り組みが明確になる。
 - ・グループで取り組むことによって、チーム作りの効果を期待できる。
- というような効果が実感されましたでしょうか？

製作

CEC

21世紀型コミュニケーション力の育成プロジェクト委員会

30

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

子どもたちへの教育活動の中や教職員研修、あるいは保護者懇談会等で、本日体験した「ブレインストーミングとKJ法」を効果的に活用し、効果的なコミュニケーションが行われることを期待しております。

以上でワークショップを終了いたします。
ありがとうございました。